



Mr.サンデー

「6月にロシアがなくなる？」木村太郎と4人の専門家が読み解く ウクライナ侵攻“結末のシナリオ”

 Mr.サンデー

2022年3月14日 月曜 午後5:22

ロシア軍に包囲されつつあるキエフ…停戦は

じりじりとロシア軍が迫るウクライナの首都・キエフ。首都攻防の行方とウクライナ侵攻の結末について、今後どのようなシナリオが考えられるのか。4人の専門家に話を聞くと、いずれも「すぐに停戦には落ち着かないだろう」という予測だった。

【防衛省 防衛研究所 高橋杉雄氏】

- ・キエフ包囲が阻止され、膠着状態が続けば“ワイルドカード”として、ロシア軍は生物化学兵器使用の可能性
- ・戦争に勝ったとしても、経済制裁は終わらずロシアは厳しい

【元産経新聞モスクワ支局長・大和大学 社会学部 佐々木正明教授】

- ・キエフが陥落したら280万人都市が火の海になり、21世紀最大の悲劇に。キエフ陥落は絶対にあってはならないシナリオ
- ・ポイントは停戦交渉。国際社会が一致団結してプーチンの戦争をやめさせるしかない





【日本大学 危機管理学部 小谷賢教授】

- ・キエフが陥落する可能性は高い
- ・ポイントは陥落後のゼレンスキー大統領の行動。国内にとどまってウクライナ軍の士気を上げ続けるしかない。国外脱出すればロシア側に「国を捨てた」とプロパガンダとして利用される

【防衛省 防衛研究所 兵頭慎治氏】

- ・中東の志願兵投入は、キエフ攻防の「長期化の覚悟」を意味する。プーチンはゼレンスキーが降伏しない限り諦めない
- ・ポイントはロシア国内の世論。制裁をはじめとする“違和感”に国民が気付けば事態が変わる可能性

専門家 今後のシナリオ

| | |
|---|---|
|  <small>防衛省 防衛研究所 高橋 杉雄氏</small> | <ul style="list-style-type: none"> ・キエフ包囲が阻止され、膠着状態が続けば“ワイルドカード”としてロシア軍は、生物化学兵器使用の可能性 ・戦争に勝ったとしても、経済制裁は終わらずロシアは厳しい |
|  <small>元産経新聞モスクワ支局長 大和大学 社会学部 佐々木 正明教授</small> | <ul style="list-style-type: none"> ・キエフが陥落したら280万人都市が火の海になり、21世紀最大の悲劇にキエフ陥落は絶対にあってはならないシナリオ ・ポイントは「停戦交渉」 国際社会が一致団結してプーチンの戦争をやめさせるしかない |
|  <small>日本大学 危機管理学部 小谷 賢教授</small> | <ul style="list-style-type: none"> ・キエフが陥落する可能性は高い ・ポイントは「陥落後のゼレンスキー大統領の行動」 国内にとどまってウクライナ軍の士気を上げ続けるしかない 国外脱出すればロシア側に「国を捨てた」とプロパガンダとして利用される |
|  <small>防衛省 防衛研究所 兵頭 慎治氏</small> | <ul style="list-style-type: none"> ・中東の志願兵投入はキエフ攻防の「長期化の覚悟」を意味する プーチンはゼレンスキーが降伏しない限り諦めない ・ポイントは「ロシア国内の世論」。制裁をはじめとする“違和感”に国民が気付けば事態が変わる可能性 |

この記事の画像（4枚）

そんな中、ジャーナリストの木村太郎氏が挙げたのが「6月にロシアがなくなる」というキーワードだ。

木村太郎氏：

これは僕が言ってるのではなくて、ロシアにFSB（露連邦保安局）という組織があって、その分析官が今後の戦争について匿名で分析を書いているんです。今回の侵攻はまったく完全な失敗だったと。ロシアはいくら頑張ってもウクライナに勝つことはできないだろうと。なぜかという、補給戦が延びてる。20万人を投入したが、例えば首都を制圧して大統領を殺したとしても、民衆を全部おさえるとすると50万人くらいの兵隊がいけないといけない。それがいないうちに制裁が効いてきて、ロシアの経済は6月までに壊滅してしまう。それでロシアがなくなる。そういうことを言っている。

ロシアの反政府ウェブサイトに掲載された
FSB(露連邦保安局)の分析官が書いたとみられる内部文書の概要

- ロシア情報担当者すらウクライナ侵攻を知らなかった
- 侵攻は完全に失敗
- ロシア軍に1万人以上の死者の可能性
- “日露戦争の過ち”を繰り返そうとしている
- ロシアは6月に経済破綻する

6月にロシア経済が破綻するということになれば、プーチン大統領の失脚もあり得るのか？

木村太郎氏：

それはまた別のシナリオがあるんですけど、プーチンはもしかしたら可能性として、クーデターでどこかに連れて行かれてしまうかもしれない。そういう可能性っていうのも考えておいた方がいいということ言ってる。これは可能性として高いかどうかは別にして、そういうオプションもあるんじゃないかと思うんですね。

アメリカがウクライナの“目と耳”に デジタル情報戦で優位の理由

もう一つの戦争、デジタル情報戦についてはウクライナが圧倒的に優位だという見方もある。その理由について木村氏は「アメリカがウクライナの“目と耳”になっている」という。

木村太郎氏：

アメリカは情報戦でロシアを圧倒してるんですね。一つは大筋の情報を的確に、しかも先に出している。今度の戦争で「偽旗作戦」という言葉が出てきた。これは誰かに見せかける作戦。最近でもベラルーシで爆撃があって「ウクライナが爆撃したから、ベラルーシはウクライナに参戦しろよ」と。「こういうことを（ロシアが）言うぞ」とアメリカが言うわけですよ。すると、ベラルーシは参戦できなくなってしまう。そういうことをアメリカはうまくやった。

アメリカ情報機関の“的確さ”

昨年末 ロシア軍がウクライナ国境付近に集結

「プーチン大統領がウクライナに侵攻する可能性が極めて高い」と警告 → **的中**

「ウクライナ政府軍が東部の親ロシア派を攻撃したという偽情報を根拠にロシア軍が介入する」と予測 → **的中**

木村太郎氏：

もう一つ、目と耳になってるっていうのは、ウクライナの国境ギリギリのところを今、アメリカのスパイ機が飛んでるんですよ。それでロシア軍の通信とか、あるいは動きなんかをそのままウクライナ軍に伝えて、しかも命令まで出してるんですね。そういうことをやっているの、今のアメリカ軍はウクライナ軍にとって貴重な存在。ウクライナが頑張っているのはこの情報があったることだと言われてますね。

このようにしてアメリカがウクライナの“目と耳”になることで、ウクライナ政府はいろいろな情報を得ることができているという。

狙わなくても当たるミサイル 米からウクライナへの武器提供も？

アメリカはウクライナに対して、情報の提供だけではなく武器の供給も行っているという報道もあった。それが「ジャベリン・ミサイル」という対戦車ミサイル。

木村太郎氏：

狙って撃つんじゃなくて、とりあえず適当に撃つと当たるといふミサイルなんです。すごく恐ろしい対戦車砲。これを含めて1万7000の対戦車砲が、1週間以内にウクライナに送られた。エストニアでウクライナの輸送機に積み替えて、これからウクライナに飛ぶんだって言うんですが、ロシア側がまだこれに気がついてないからここまで手が回らないだろうな、ということまで記事に書かれてしまった。

この「ジャベリン・ミサイル」の報道によって、リビウの軍事関連施設が狙われてしまったという見方もある。また、木村氏は今回のロシアの作戦についてこう述べた。

木村太郎氏：

今回、戦車の補給部隊を連れていくのも少なかったし、食料も少なかった。もう一つは、まっすぐ道路に列をつくって戦車が走るこゝなんて、軍事専門家に言わせたらありえないって言うんですね。木の間に隠れるのが当たり前だと。そういう意味で非常に初歩的な戦車作戦っていうのも、ロシアはできてなかったんじゃないかと言われていゝます。

ウクライナ侵攻の結末は…。日々変わり続ける情勢に注目したい。

(「Mr.サンデー」3月13日放送分より)

【よく一緒に読まれている記事】

